

群 教 セ	G15 - 01
	平 30.268 集
	高 - キャリア

平成30年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社SUBARU

長期社会体験研修員 大澤 輝

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社SUBARUは、1917年に「中島飛行機研究所」として創業し、2017年で100周年を迎えた。また、2017年4月1日から、企業名を従来の「富士重工業株式会社」から「株式会社SUBARU」へと変更した。「昴（すばる）」は、別名「六連星（むつらぼし）」とも呼ばれる星団の名前で、それをデザインしコーポレートシンボルとして定めている。

主な事業内容は、自動車及びその部品の製造、並びに航空機や宇宙関連機器部品の製造、販売及び修理である。自動車の製造を群馬県内の工場で行い、グローバルに販売活動を展開している企業である。

2 研修先での主な研修内容

(1) 新入社員研修【4月3日～4月18日】（研修場所：本工場西本館、赤城林間学園）

新入社員研修では、人事課長の講話やマナー研修、コミュニケーションスキル研修、スバルについて理解を深めるためのスバルイズム等、社会人としての基本的な知識を身に付ける講義を受けた。また、赤城林間学園での宿泊研修では、これまでの講義で学んだ知識を基に、実践としてアイデアカーの製作を行った。さらに、防災訓練、安全衛生教育や労働組合教育を受けるとともに、先輩社員との意見交換会や半年後の自分の行動宣言の決定を行った。研修の運営を補佐しながら、新入社員とともに受講した。

(2) 人事課での研修【4月3日～3月22日】（研修場所：本工場本館人事課フロア他）

①人材開発係での業務

月次業務では、改善活動として行われる創意工夫改善提案の集計や社内教育で行われる公開講座のためのテキストの準備、受講料の控除、修了証の発行などを行った。公的資格援助申請では、申請された書類を確認し、資格取得のための費用を給与に反映させる処理を担当した。会計業務では伝票入力や請求書の管理をした。

式典業務では、永年勤続表彰式や成人式、技能五輪全国大会の報告式、所内技能五輪大会の表彰式の運営業務などに携わった。

②人事企画係での業務

「元気で頑張っています」の企画として、高等学校を卒業した新入社員が働いている様子を出身高校に伝えるため、各工場で写真撮影を行った。また、高等学校卒業予定者を対象とした採用試験の試験監督や面接の誘導業務に携わった。さらに、採用のあった学校を訪問し、在校生に関する情報共有や次年度の求人について説明を行う業務に同行した。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

企業研修で学んだことを基に、「高校生のうちに身に付けておきたいこと」を伝えるための資料としてリーフレットを作成した。製造業における職種や企業が求めている人材、企業研修の中で感じた「コミュニケーション能力」の必要性や重要性を伝える内容とした。

また、社員の方々からのメッセージでは、業務内容や仕事のやりがい、高校生の時に頑張ったことなどを掲載し、卒業までに身に付けてほしいことを明確にした。

(2) 実践の概要（県立高崎工業高等学校）

題材名 「伸ばそう！伝える力と聞く力」（特別活動「ホームルーム」）

対 象 電気科第2学年 39名

グループワークにおけるコミュニケーション能力や仲間と協力して作業できる力は、企業で必要とされている。そこで、新入社員研修で実施していた「アイデアカーの製作」の内容を参考に、「新型自動車の企画」として授業を実践した。コミュニケーション能力やチームワークの必要性を理解させるため、グループワークではジグソー活動などを取り入れ、生徒が説明する場面や発表する場面を設定し、伝える力と聞く力を高めることをねらいとして、本授業を行った。

II 研修成果

1 人材開発係での業務について

集計業務では、期限内で集計を終えることや締切りを守ることなど、日々の業務の時間管理が徹底されており、その重要性を改めて実感した。また、業務を進める上では、個人で取り組むことは少なく、係や課を横断して多くの方と関わり合うことが必要であった。相手が話す内容の意図をしっかりと聞き取ることや分かりやすい言葉で伝えることの重要性を改めて感じる事ができた。

新入社員研修や階層別研修では、コミュニケーションの必要性を共通して伝えていた。立場に応じて求められる、伝え方や聞き方、話をしやすい雰囲気づくりについて実践を交えながら学んでおり、コミュニケーション能力は、社会人として必要な力であることを再確認することができた。

2 人事企画係での業務について

高校生の採用試験や学校訪問等の業務に携わることで、学校と企業のつながりについて学ぶことができた。生徒と企業をよい関係で結び付けるためにも、生徒の特性や希望をしっかりと理解した上で、企業での勤務内容や求めている人材などを把握して、進路指導を行っていく必要があると感じた。また、企業の立場から学校を見たことで、身だしなみや言葉遣い、立ち振る舞いなど、社会人として当たり前のことを生徒に指導することの大切さを改めて感じる事ができた。

3 キャリア教育実践（授業実践）について

グループワークでは、ジグソー法を用いたグループの再編制を行った。そのため、与えられた役割を理解し、当事者意識をもちながら、協力して作業に取り組むことができた。

授業アンケートの結果では、生徒に伝えたかった「コミュニケーション能力」と「チームワーク」を選択した生徒が多数を占め、その必要性を理解させることができた。また、仕事の工程や役割、全体発表を聞くときの態度など多くのことを学ばせることができた。

III まとめ

民間企業で勤務をした経験が無かったため、今までは会社組織の役割や業務内容などについて深く理解しないまま進路指導を行っていた。しかし、本研修を通して、多くのことを経験し、学ぶことができた。特に、企業が求めている人材や企業での人材育成について理解することができ、生徒を企業に送り出す立場の高校教員として貴重な学びとなった。工業高等学校では、卒業後、半数以上の生徒が就職する。今後は就職を希望する生徒に対して、自信をもって、より具体的な進路指導を行うことができる。

研修を通じ学んだことを、組織運営や業務改善、担任や授業担当者としての日々の指導、進路指導などにおいて発揮したい。

（担当指導主事 贄田 秀樹）